

令和6年度卒業生への卒業時アンケートの概要報告

【目的】本調査は本学の教育及び学修成果等を検証することを目的として4年生の卒業時にアンケートを実施

- 【方法】
1. 調査対象：令和6年度卒業生
 2. 調査方法：大学が学生に付与しているメールで依頼を行い、Googleフォームにより回答を集約
 3. その他：調査対象の21番台の学生は入学時から3年初旬までコロナ禍を過ごした社会的背景がある

【結果】

問1. 回答学生

学部	回答者数	対象者数	回答率
体育学部（全体）	519	573	91%

問2. 仙台大学の4年間で一番何に力を注ぎましたか？

項目	1. 勉学	2. 資格取得	3. 部活動	4. 友人づくり	5. その他学内での活動	6. 学外での活動	合計
回答数	89	65	249	19	13	84	519
割合	17.1%	12.5%	48.0%	3.7%	2.5%	16.2%	100.0%

分析結果：昨年度と同様に「部活動」と回答した学生の割合が最も多く、「勉学」「学外での活動」と続いている。昨年度と比較すると「勉学」に力をついだと回答した学生が4.6ポイント上昇している一方で「資格取得」に力をついだと回答した学生が2.9ポイント低下した。魅力ある授業を展開することで学業に注力する学生の割合向上を目指すとともに、資格を取得することの魅力を発信していくことが意欲向上につながると考えられる。

問3. 仙台大学の教育（教育課程）で成長できた実感はありますか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	247	224	38	10	519
割合	47.6%	43.2%	7.3%	1.9%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」の肯定的な回答割合が90.8%（昨年度82.5%）を占めた。昨年よりも8.3ポイント上昇しており、本学の教育課程を通して多くの学生が成長を実感したことがうかがえる。更なる教育改革及び授業運営を断行していくことが重要である。

問4. 仙台大学の施設・設備に満足していますか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	185	203	107	24	519
割合	35.6%	39.1%	20.6%	4.6%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」の肯定的な回答割合が74.7%（昨年度71.8%）を占めており、学生が施設・設備に満足していたことがうかがえる。しかし、施設・設備に満足していない学が4分の1に当たる25.2%いることも事実であり、施設・設備の更新、整備等、適切に対処していく必要がある。

問5-1. 仙台大学での4年間の「あなたの目標」は何でしたか？

項目	1. 学業	2. 資格取得	3. 部活動	4. 友人作り	5. 留学	6. ボランティア	7. 学外での活動（アルバイト等）	8. 目標ができなかった	9. その他
回答数	98	144	193	19	3	1	29	11	21
割合	18.9%	27.7%	37.2%	3.7%	0.6%	0.2%	5.6%	2.1%	4.0%

分析結果：前年同様「部活動」「資格取得」「学業」の順で多く、全体の約83.8%を（昨年度82.1%）占めた。「部活動」が最も多く体育系大学の特徴の表れであるともいえるが「学業」「資格取得」が両立できるような支援が必要であると考えられる。

問5-2. 仙台大学での4年間であなたの目標は達成できましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	225	217	56	21	519
割合	43.4%	41.8%	10.8%	4.0%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」の肯定的な回答割合が全体の85.2%（昨年度82.1%）を占めた。「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の否定的な回答が全体の14.8%あり、学生への極め細やかな支援体制が必要であると考えられる。

問6. 仙台大学に入学して良かったと思いますか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	245	214	51	9	519
割合	47.2%	41.2%	9.8%	1.7%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」の肯定的な回答割合が全体の88.4%（昨年度85.4%）を占め、昨年度よりも3.0ポイント上昇した。一方で「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の否定的な回答が11.5%（昨年度14.6%）で低下となったが、学生支援体制の見直しや充実の継続は必要であると考えられる。

問7. 専攻分野に関する専門的・応用的な知識や技術を身につけることはできましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. 全くそう思わない	合計
回答数	241	231	42	5	519
割合	46.4%	44.5%	8.1%	1.0%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」の肯定的な回答割合が全体の90.9%（昨年度88.0%）を占め、昨年度よりも2.9ポイント上昇した。一方で「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の否定的な回答が9.1%（昨年度12.0%）で低下となったが、学生への教育の見直しや支援の充実の継続は必要であると考えられる。

問8. 大学で専攻した分野が果たす役割を深く理解することはできましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう 思わない	4. 全くそう 思わない	合計
回答数	234	243	39	3	519
割合	45.1%	46.8%	7.5%	0.6%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」の肯定的な回答割合が全体の91.9%（昨年度88.4%）を占め、昨年度よりも3.5ポイント上昇した。高い割合であることは大学の取組みが良い方向にであると捉えることができるが、さらに改善を継続していくことが重要である。

問9. 専攻分野の実践の場において、知識・技能を相手に的確に伝える力はつきましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう 思う	3. あまりそう 思わない	4. 全くそう 思わない	合計
回答数	219	246	51	3	519
割合	42.2%	47.4%	9.8%	0.6%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」の肯定的な回答が全体の89.6%（昨年度83.9%）を占め、昨年度よりも5.7ポイント上昇した。3年次にコロナ禍が明け、コミュニケーションをとる機会が増えていることに加え、学外実習を含む本学の教育の成果が表れていると捉えることもでき、継続していくことが大変重要である。

問10. 多様な人々と円滑な人間関係を築く力はつきましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう 思う	3. あまりそう 思わない	4. 全くそう 思わない	合計
回答数	299	180	33	7	519
割合	57.6%	34.7%	6.4%	1.3%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」の肯定的な回答割合が92.3%（昨年度84.0%）を占め、昨年度よりも8.3ポイントも大幅に上昇した。3年次にコロナ禍が明け、部活動や学外実習等を通して人間関係を構築する機会が十分に確保できるようになったことが大きく影響しているものと思われる。

問11. 指導や支援を行う場において、専門的知見を踏まえて、適切にコミュニケーションできる力はつきましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう 思う	3. あまりそう 思わない	4. 全くそう 思わない	合計
回答数	265	215	37	2	519
割合	51.1%	41.4%	7.1%	0.4%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」の肯定的な回答割合が92.5%（昨年度95.9%）と減少した。この変化は、1年間で学生のコミュニケーション能力に対する自己評価がより慎重になったことを示唆している。就職活動を通じて社会が求める能力水準を認識したこと、あるいは専門知識の深化に伴い自己評価の基準が厳格化した可能性が考えられる。

問12. 多様な人々とコミュニケーションを図りながら課題を探求し、主体性を持って課題解決に取り組む力はつきましたか？

項目	1. そう思う	2. ややそう 思う	3. あまりそう 思わない	4. 全くそう 思わない	合計
回答数	262	221	31	5	519
割合	50.5%	42.6%	6.0%	1.0%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」の肯定的な回答が93.1%（昨年度93.9%）を占めた。この1年間で、学生の課題解決能力に対する自己評価がより控えめになったと解釈できる。背景には、大学での学習や社会との接点を通じてより複雑な課題に直面し、自己の能力をより客観的に評価するようになった可能性がある。

問13. 大学からiPadの貸与を受けて良かったと思いますか？

項目	1. そう思う	2. ややそう 思う	3. あまりそう 思わない	4. 全くそう 思わない	合計
回答数	380	111	23	5	519
割合	73.2%	21.4%	4.4%	1.0%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」の肯定的な回答割合が94.6%（昨年度94.3%）と昨年同様に高い割合を占めている。コロナ禍でのiPad貸与により学修環境が確保できただけでなく、ICTスキルの上昇、社会のデジタル化進展による活用スキルの重要性認識の高まり等に対応できる能力獲得が結果に表れているものと考えられる。

問14. 本学のオンライン授業の内容はわかりやすかったですか？

項目	1. そう思う	2. ややそう 思う	3. あまりそう 思わない	4. 全くそう 思わない	合計
回答数	225	206	70	18	519
割合	43.4%	39.7%	13.5%	3.5%	100.0%

分析結果：「1. そう思う」「2. ややそう思う」の肯定的な回答割合が83.1%（昨年度81.0%）と昨年度よりも2.1ポイント上昇した。教員の工夫によるオンライン授業の充実及び、コロナ禍以降の対面授業でのGoogleクラスルームを活用した双方向の授業や課題掲示等の充実が結果に反映されたものと考えられる。